

きらり 通信

平成26年5月22日(木)発行 第17号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>

地域の皆さんと一緒に

校長 菊地 恵美子

特別支援学校ができる「地域支援」とは?と自問しながら「地域支援センター きらり」を立ち上げ、地域支援に取り組んで5年目を迎えました。この間、幼児児童生徒や保護者、教員等の相談ニーズに応じて支援を行ったり、学校等の研修や校内支援体制作りへの支援を行ったりする中で、地域の学校や先生方、保護者の皆様に、幼児児童生徒の抱える課題の根底にあるものをしっかりととらえることの重要性に気付いていただいたように思います。

本当に困っているのは幼児児童生徒なのだということ、それが様々な行動に表れているということ、むしろその様々な課題を形成している環境に留意しなければならないことをご理解いただくようになり、その観点から相談に当たらせていただくようになってきました。

「地域支援センター きらり」は、これからも地域の皆さんと一緒に知恵を出し合い、子供たちを支援していきたいと思っています。今後も、更なる御協力、御理解をお願いします。



地域支援センターきらりの活動について

地域支援センター主任 大竹奈保子

「地域支援センターきらり」は、今年度も「すべての子どもたちが笑顔で生活できるようにお手伝いします」をテーマとして活動していきます。中心となる取り組みは次の2つです。よろしくお願いたします。



様々な教育相談

～困り事、悩み事を一緒に考えます～

保護者の方々、幼稚園や保育園、各学校の先生方からの相談を随時受け付けております。地域支援センターの担当者だけでなく、本校の教員の専門性を生かした情報提供も行っております。お子さんについて、授業作りについて、どのようなお話でもけっこうです。お気軽にご連絡下さい。秘密は厳守いたします。

研修会の開催と校内支援体制作りへの支援

～指導・支援の充実を一緒に目指します～

地域の小学校・中学校・高等学校の先生方を対象に実践講座・懇談会(8月)と授業公開・懇談会(1月)を開催する予定です。また、各学校の研修や校内支援体制作りの支援も行います。

須賀川養護学校0248(76)2511へ
お電話下さい。担当者がお話をうかがいます。

困った行動⇔困っているサイン！？

例えば、自分が見知らぬ外国に一人であることを想像してみてください。言葉が通じない、習慣も違う、何をしてもよいのか分からない…。通りかかった人が自分に声をかけてくれたけど、なんて言ってるの？ どうしてもよいのか分からない…。「不安」ですね。

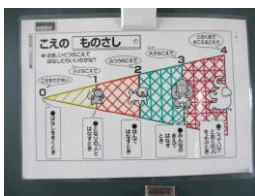
もしかすると、目の前にいる子どもたちは、そのような思いでいるのかもしれない。「落ち着きがない」「大きな声を出す」「教室を出てしまう」「ぼーっとしている」等、支援する方から見れば困ったと思う行動も、子どもたち自身から見れば、どうしたらよいのか分からない、うまく伝えられない、できない…等、不安で困っている様子の表れの一つとも言えるのではないのでしょうか。



不安を少なくしていくには、子どもたち自身が「分かる」ことが必要です。「あれ取って。」よりも「ボールを取って。」と言われる方が分かります。言葉だけで伝えるよりも、絵や写真等の視覚的な支援も一緒にあると、より分かりやすいです。あらかじめ活動の順番が示されれば、見通しを持つことができます。どの方法なら

分かるのかは子どもたちによって違いますが、「分かる」ことで不安が減ることは、子どもたちの行動が変わるきっかけの一つとなるかもしれません。

(文責 深松)



☆きらりちゃん日記☆



待ち時間や休み時間などはどう過ごしていいのが迷う子どもも多いようです。「〇〇してみよう。」「△△はどう？」など何をすることを具体的に伝えると過ごしやすいかもかもしれません。(大竹)

本の紹介

今回は「当事者の声」をテーマに3冊の本をご紹介します。



理解はできているのに、読み書きができないために辛い思いをした日々。文字から、学校から逃げ出した著者が、自分なりの勉強の仕方を手に入れていく過程が印象的です。(紹介者：柳内)

副題は「アスペルガー症候群親子は転んでもただでは起きぬ」。当事者である著者の幼稚園選びの基準や小学校とのバトルが痛快で、子育てエッセイとしても楽しく読めます。(紹介者：大竹)



個性的な乗り越えて、時に異星人(エイリアン)のようにさえ感じられる妻を、夫の視点から描いたノンフィクションです。実はこの夫が…「あとがき」をお楽しみに！(紹介者：深松)